

極楽寺だより

長門市三隅下
野波瀬
0837(43)0625

御正忌報恩講のご案内

如来さまの大慈悲をあきらかにして、
私たちに浄土往生の道を示して下さいました
ご開山親鸞聖人の九十年のご苦勞とご恩徳を讃え、
仏恩報謝の心をよせあって、
切につとめさせていただく報恩講。
浄土真宗では、もつとも大事なご法要です。
お誘いあわせお参り下さい。

一月十四日(金) 昼一時半 夜七時
十五日(土) 昼一時半 夜七時
夜十一時
十六日(日) 昼一時半

(十六日は親鸞聖人のご命日。特に大切に勤めます。)

報恩講お斎のご案内

次の通り、お斎のご案内を申し上げます。

十五日	十四日	す。
向山・久原・土手 中村・大竹・市・湯免 下中小野・辻並	豊原・平野・浅田・沢江 上ゲ・殿村・上東方 下東方・小島・町外	昼
野波瀬西側 (五〜十三班)	野波瀬東側 (一〜四班) 室生	夜

- ※ 十六日は、お斎はありません。
- ※ 都合の悪い方は、指定以外の日

お斎の受付のおねがい

野波瀬の世話人の方は、毎年のように担当区域のお斎の日のお世話をお願いします。

年回忌表

2011年(平成二十三年) 昭和86年に当たります。

100 回忌	50 回忌	33 回忌	25 回忌	17 回忌	13 回忌	7 回忌	3 回忌	1 周年忌
1912年 大正元年 往生	1962年 昭和37年 往生	1979年 昭和54年 往生	1987年 昭和62年 往生	1995年 平成7年 往生	1999年 平成11年 往生	2005年 平成17年 往生	2009年 平成21年 往生	2010年 平成22年 往生

御正忌報恩講つて？

親鸞聖人の亡くなられた日をご縁として開かれる法要です。親鸞聖人は七五〇年も前に亡くなられましたが、聖人がその一生をかけて明らかにされたお念仏の教えは、それを生きる力、そして「よりどころ」とした、たくさんのお念仏者を生み育ててきました。私たちの先輩方は、この御正忌という法要を一番大切にされ、人生における本当に尊いことを聴聞されました。門徒みんながこの御正忌にお参りすることが、慣わしでもあったのです。

十五日には、夜の座の後に午後十一時の通夜法座もあります（平成六年までは、十六日朝五時のお朝事まで、徹夜でお番をするお通夜を、極楽寺でも勤めていました。）十六日の御命日は、特に大切にお勤めいたします。十六日には、毎年記念写真を撮ります。



今年の十六日御命日にお参りされた皆さん

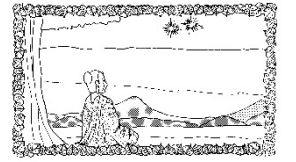
お寺のお世話をして下さる、総代・世話人の皆さんです
今年もよろしくお祈りいたします

総代長	藤田平二さん（仙崎）		
副総代長	木村慎治さん（野波瀬）	総代	山中重良さん（豊原）
総代	小林明さん（豊原）	総代	宮崎忠彦さん（野波瀬）
会計	松野行利さん（野波瀬）	監査	野村昭一さん（上東方）

野波瀬西側	斉藤達男さん	市・湯免	名和田栄さん
	綿野節男さん	土手・中村・大竹	竹林啓助さん
	宮崎忠彦さん	久原	藤村勇次さん
	黒瀬彰己さん	向山	木村重彦さん
	高野芳雄さん	上東方	西村一夫さん
	角村信忠さん	下東方・小島	小林昭さん
野波瀬東側	河村康昭さん	豊原	山中博道さん
	鼻野直行さん		重岡幸作さん
	石川義文さん		宮本智さん
	田村末夫さん		石村政一さん
	岩本国久さん	平野	山中洋介さん
辻並・中小野	上田耕作さん	浅田・沢江・上ゲ・殿村	磯昭正さん

世話交代

1989（平成1）年より、豊原地区世話人を勤めて下さった岡村栄一さん（21年間在任）に代わり、山中博道さんが新しく世話人を勤めて下さることになりました。どうぞ、よろしくお祈りいたします。岡村さん、長い間有り難うございました。



極楽寺揭示伝道 けいじてんどう

ある外国の博覧会。人気のパビリオンには待ち時間の長い行列ができ、たくさんの人たちが待ちくたびれています。ところがあるパビリオンだけは、長い待ち時間に飽きる頃、何故かみんな振り返り、にこやかな笑顔になるのです。

なぜなら、そこは入口が二階にあり、最後には階段を上る作りになっています。そこから振り返ると、今まで並んでいた列が、実は動物の一筆書きの画になっていて見下ろすと、自分自身が楽しい展示の一部になっていたことが知らされる。視点が変わったことで、先に行く人たちの笑顔の秘密がわかり、とても楽しくなる。思い浮かべるだけでも、にこやかな笑顔が想像できるようです。私たちは「過去は変えることはできない」と思いがちですが、視点が変われば過去も変わります。いえ、過去は見直すことができます。今年も、色んなことがありました。うれしいことや、忘れたいような嫌なことも。しかし、視点が変われば、忘れたい過去も貴重な経験となり、見落としていた大切なことに気づくことができるかもしれません。

人生は

極楽寺揭示伝道

やり直すことは

できないが

見直すことは

金子大栄

12月の言葉

ん。新しい年を迎えるにあたり、未来ばかりに目も行きがちになりますが、過去を見直すことができるような豊かな視点を育てる一年にしたものだと思います。

考えてみれば、最近「よくよく考える」ということをしていないことに気が付かされます。忙しさに流されるあまり、立ち止まり、自分の足下をみつめることも、あまりありません。あれが欲しい、これが足りない、求めることは多いのですが、何を与えられ、誰に支えられているのかということには、なかなか目がいかないようです。お正月、テレビでは初詣の参拝客が映し出されます。それぞれに願いをもって、お参りされることなのでしょう。しかし、求める心は限りがありません。

よくよく

考えてみれば

幸せな

身である

極楽寺揭示伝道

1月の言葉

仏法は、「与えられているものを見つめることがなければ、満たされることも、有り難さに気づくこともないのだということ、よくよく考えなさい」と呼びかけて下さるのです。ただ、よくよく考えてみないと、それをわかったつもりになっている私にも、気づけないようすが。

私の『流行語大賞』 若住職

今年の流行語大賞は、「ゲゲゲの〜」が選ばれました。

高い人気を誇ったNHK朝の連続テレビ小説『ゲゲゲの女房』からだそうですが、観ていない私にとっては、あまりピンときませんでした。皆さんは、どうでしょう。今年の流行語を選ぶとしたら、どんな言葉を選ばれますか？私が選考委員なら、今年の大賞は迷うことなく、「辞めたらどうですか」を選びと思います。総理大臣を始め、横綱朝青龍関。野球賭博に関連して大関琴光喜関、元貴闘力の大嶽親方。それに法務大臣まで、いろんな方々が不祥事で辞めていかれました。国会や政局では、政権交代以前から、連日のようにこの言葉が飛び交っています。昨日まで「辞めたらどうですか」と言っていた側が、今日は言われる側になっていて、追及を受けて辞められた方が、今度は「辞めたらどうですか」と言う側にまわっている。そんな状況が、繰り返されています。しかし、歌舞伎俳優市川海老蔵さんの謝罪会見で発せら



極楽寺だよりエッセイ

オシエノカケラ

れた、芸能レポーターの方の「引退は考えてはおられないのですか」という質問には、「そこまで言わなくても」と思われた方も多かったようです。確かに、辞めた方が良いケースもあるでしょうが、何でもかんでも「辞めろ」というのは、短絡的ですし軽々しいのではないのでしょうか。辞めることだけが、責任のとり方なのかどうか疑問に思うこともありますし、トカゲのしっぽ切りであれば、かえって無責任なことになってしまいます。確かに起こしてしまった不祥事に対しては、厳しく反省し、受け止めなくてはなりません。だからといって、その人の人生や家族のことを考えると、そこまで簡単に切り捨てていいのかというと、それは違うと思います。

ここまでくると、「氣にくわれないヤツは切り捨てて、どこか目の届かないところに捨ててしまえ」という態度のようにさえ、思えてなりません。最近のワイドショーでは、市井の人々さえ興味の対象にされていますから、いつその矛先が自分に向けられるかもしれないと思うと、怖いですね。それは学校のいじめ問題の構図と、全く同じもののように感じられます。



以前、サッカー日本代表監督であったイビチャ・オシム氏が言われた、「誰かを『不要だ』などと言う人間は、いつか自分もそういう立場に陥るようになる。人生とはそういうものだ。」という言葉、思いたすことが多くなりました。

阿弥陀如来は、「あなたのことを、決して捨てることはない」と誓われた仏様です。だからといって「何をしてもいいんだ」と開き直って良いということではありません。私たちの先輩方は、大きな慈しみと同時に、大きな悲しみを持ちながら呼びかけられている阿弥陀如来の心を受け止めた時に、深く頭を下げ、謙虚にわが身の愚かさに向き合われたのです。自分の過ちを忘れることなく、そこから知らされた気づきを大切にされたのです。そこにこそ、自分の人生に責任を持つという態度があるのではないかと、教えられるのです。

もうそろそろ、「辞めたらどうですか」と言葉を、流行語のように軽々しく言うのは、やめたらどうでしょう。それよりも、責任をとるとはどういうことなのかを、真摯に考えてなくてはならないと思うのです。

秀



元大嶽親方は、焼肉店オープンで再出発。スタッフの背中には、「反省」の文字が。

長編小説

親鸞

激動編

五木 寛之
画/山口晃

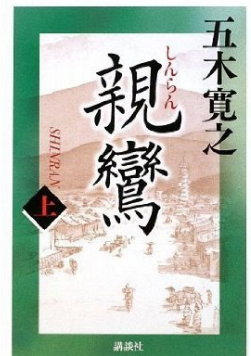
2011(平成23)年

1月1日からスタート

今年、ベストセラーとなりました五木寛之さんの『親鸞』の続編、『親鸞 激動編』が、1月1日より、山口新聞等で連載されます。流罪後の越後から関東へ、波乱の時代を生き、かつてない親鸞像を描かれるということです。

幼き日の親鸞聖人が、当時の最下層に生きた「石つぶてのごとき者」たちとの出遇いを通して見つめていく、人間の醜さ、愚かさ、悲しさ、そして愛おしさを深く描かれた前作は、大きな評判を呼びました。

連載は、山口新聞だけではなく、中日新聞・東京新聞・北海道新聞・西日本新聞他、各紙にて読むことができます。



つきはじめ
11時50分



毎年、極楽寺では、おでんを用意して、大晦日に除夜の鐘つきを致します。

熱々のおでんをほおばりながら、新しい年が明けるのを共に味わいましょう。

懐かしい人と再会できるかもしれませんよ。

打ち始め十一時五十分より。終了後、初参拝のお勤めをします。

元旦会 1月1日 朝10時から



時間は約三十分。家族全員でお参りされる家もあります。皆さんお参りいたしましょう。わが家のお仏壇ぶつだんも打敷うちしきをかけて飾り、新年を迎えましょう。

ご法座には、門徒式章をつけてお参りしましょう

極楽寺 今年のご法座

- ◆ 一月一日 朝十時(毎年) 元旦会
御正忌報恩講
- ◆ 一月十四日(十六日) (毎年)
- ◆ 四月二十六日(二十七日)
春の永代経法要
講師 福岡市西教寺住職 森 哲人 師
- ◆ 五月二十一日(毎年)
清光仏教婦人会の降誕会
- ◆ 六月二十五日(二十六日) 夏法座
講師 秋芳町 明嚴寺住職 中島昭念 師
- ◆ 八月十四日(十六日) (毎年) 盆法会
- ◆ 九月二十三日(毎年) 納骨堂追悼法要
- ◆ 十一月七(八)日
秋の永代経法要
講師 筑紫野市 願応寺住職 中川清昭 師
- ◆ 十二月十八日(毎年)
清光仏教婦人会の報恩講
- ◆ 十二月三十一日(毎年)
除夜の鐘つき 初礼拝

※ 夜の座へ、たくさんのお参りを願います。
※ 法座の日程は、お配りしたカレンダーにも載っています。